

. 海外経済

		2月	3月
世界経済		<p>世界経済は雇用が悪化するなど引き続き深刻な状況にあるが、景気刺激策の効果もあって、景気は緩やかに持ち直している。</p> <p>先行きについては、緩やかな持ち直しが続くと見込まれる。ただし、信用収縮や雇用の悪化等により、景気が低迷を続けるリスクがある。</p>	(変更なし)
アメリカ		<p>アメリカでは、失業率が10%近傍で推移するなど、引き続き深刻な状況にあるが、政策効果もあり、景気は緩やかに持ち直している。</p> <p>先行きについては、基調としては緩やかな持ち直しが続くと見込まれる。ただし、信用収縮の継続や雇用の悪化等により、景気が低迷を続けるリスクがある。</p>	(変更なし)
アジア地域	中国	<p>中国では、景気刺激策の効果もあり、景気は内需を中心に拡大している。</p> <p>先行きについては、引き続き内需が堅調に推移するとみられることから、拡大傾向が続くと見込まれる。ただし、マネーサプライの急増によるリスクには留意する必要がある。</p>	(変更なし)
	インド	<p>インドでは、景気刺激策の効果もあり、景気は内需を中心に回復している。</p> <p>先行きについては、引き続き内需が堅調に推移するとみられることから、回復傾向が続くと見込まれる。ただし、農業生産の減少により、景気が下押しされるリスクがある。</p>	<p>インドでは、景気刺激策の効果もあり、景気は内需を中心に回復している。</p> <p>先行きについては、引き続き内需が堅調に推移するとみられることから、回復傾向が続くと見込まれる。ただし、物価上昇によるリスクには留意する必要がある。</p>
	その他アジア地域	<p>その他アジア地域では、景気刺激策の効果や中国向け輸出の増加もあり、総じて景気は回復しつつある。</p> <p>先行きについては、引き続き中国向けの輸出が堅調に推移するとみられること等から、回復傾向が続くと見込まれる。ただし、欧米等先進国向けの輸出の低迷が続くこと等により、本格的な回復が遅れるリスクがある。</p>	(変更なし)
ヨーロッパ地域		<p>ヨーロッパ地域では、失業率が高水準であるなど引き続き深刻な状況にあるが、自動車買換え支援策等の政策効果もあり、景気は下げ止まっている。</p> <p>先行きについては、基調としては緩やかな持ち直しに向かうと見込まれる。ただし、新興国向け貸出の不良債権化による信用収縮や自動車買換え支援策の反動、雇用の悪化等により、景気が低迷を続けるリスクがある。また、一部の国の財政悪化により、金融市場の変動が更に深刻化するリスクに留意する必要がある。</p>	(変更なし)